

各教科等における 「令和6年度の重点」

「自ら考え、判断し、表現できる子供」を目指して

学習指導要領では、子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むため、育成を目指す資質・能力の三つの柱として「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養が示されています。

これらの資質・能力を育成するため、子供たちが学びの過程の中で、他者との協働を通じて自己の考えを広げ、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、自ら課題を見いだして解決策を考えたりするなど、1人1台端末を活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善することにより、学校教育における質の高い学びを実現します。

徳島県教育委員会では、「確かな学力」において目指す子供像を「自ら考え、判断し、表現できる子供」とし、「豊かな心」「健やかな体」の育成との調和を図りながら、目指す子供の姿を実現します。

また、多様で複雑な現代の社会を生きていく子供たちには、様々な形式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり活用したりする力が必要となります。このような力を「徳島版読解力」と定義し、すべての教科等においてその育成を図ります。

「徳島版読解力」を構成する「5つの力」

1 正確に読む力

多様なメディアが発信する文章などから、読み違い、読み飛ばし、思い込み等をせずに情報を読み取る力

2 必要な情報を取り出す力

読み取った情報から、目的や意図に応じて、必要な情報を選び出す力

3 比較・関連付けて理解する力

取り出した情報を比較したり、相互の関係性を見出したりしながら、共感的、批判的な視点で情報の価値を捉える力

4 見直す力

取り出した情報が、問題を解決するために適切かどうかを点検する力

5 発信する力

取り出した情報を基に、目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、表現方法を選んで発信したり交流したりする力



目指す子供の姿

- 自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けることができる。
- 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究することができる。
- 自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとすることができる。

目指す子供を育成するための教師が取り組む具体的な実践内容

- ①**自然事象についての知識を深めたり、観察・実験の技能を身に付けたりする学習活動の充実**
 - ◇自然現象についての知識を深め、理解したことを適切な用語で説明する学習場面を多く設定する。
 - ◇観察・実験の目的を理解し、その過程や器具等の適切な操作や結果の記録により、課題解決につながる活動を充実させる。
- ②**身近な事物・現象の中に問題を見だし、「探究の過程」をたどらせる学習活動の充実**
 - ◇身近な事物・現象の中に問題を見だし、各自が根拠のある予想や仮説を立て観察・実験を行い、得られた結果を考察するなどの活動を行う場面を設定する。
 - ◇各自の考えを表やグラフ、モデル、ICT等を活用して科学的な筋道を立てて説明し、その妥当性を検討する場面を設定する。
- ③**自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする学習活動の充実**
 - ◇自然体験の大切さや日常生活や社会における科学の有用性を実感できるような場面を設定する。
 - ◇課題に対するまとめや試行錯誤した学習の状況を振り返る場面を設定する。